



糖尿病新聞

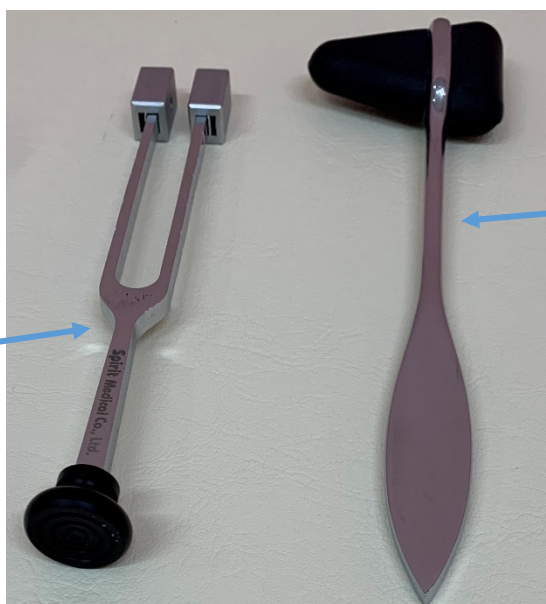
Part 4 神経障害の検査

糖尿病の合併症は、HbA1cが7%を超えて、10年位経過すると神経障害がでることがあります。

手や足の裏から症状がでることが多いです。しびれやピリピリする感じです。神経障害が進行すると、感覚をつかさどる神経のみではなく、運動神経や自律神経の障害も出ます。運動神経の障害では、下肢の筋肉の萎縮があり、足が細くなります。自律神経の障害では、立った時の立ち眩み、胃のムカつき、繰り返す便秘や下痢、ED、排尿障害などがあります。

検査

足のくるぶしで、振るえるのを何秒感じるかの試験をします。



音叉

ハンマー

膝とアキレス腱の腱反射をみます

診断

手足のしびれがあり、アキレス腱反射の消失、振動覚で振るえる時間を感じるのが10秒以下を軽度神経障害あり、5秒以下を高度神経障害ありとしています。

治療は、生活習慣の改善(糖尿病の療養の指導)と血糖コントロールになります。内服では、アルドース還元酵素阻害薬(エパルレスタット)やビタミンB12(メチコバル)があります。痛みを伴う場合は、プレカバリン(リリカ)を投与します。